

第3学年 特別活動学習指導案

日時 平成18年10月27日(金)3校時
生徒 雫石町立雫石中学校 3年1組
(男子21名、女子17名、計38名)
場所 3年1組 教室
授業者 教諭 菊地 剛
警察官 藤田 秀秋

1. 題材「薬物乱用の社会的影響」

2. 題材設定の理由

現代社会において、中学生の時期にも喫煙・飲酒・薬物乱用の危険性が増しており、緊急に対策を講じることが求められている。特に「薬物乱用」に関しては、全国で中・高校生の薬物に関わる犯罪が多発しており、安易に手に入れやすい現実が社会問題にもなっている。

生涯にわたって健康でたくましく生きる生徒を育成するためには、薬物乱用によってもたらされる健康への影響や様々な問題について、早い時期から理解させていくことが大切であると考えます。

3. 生徒の実態

1・2年生では、飲酒や喫煙について、3年生では薬物乱用防止について学習してきた。はっきりと答えのある発問に関しては、大部分の生徒が挙手をして発表するが、自分の考えを発表する場になるとはっきり述べる生徒としぶる生徒とに分かれてしまう。ただし、書くことに抵抗はなく、全員が自分の考えをもつことはできる。

事前アンケートの結果、薬物乱用に関して、いけないことは理解しているが、薬物の危険性や社会的影響について理解している生徒は少ない。

4. 本時について

(1) 本時の目標

- ・薬物乱用が、自分自身や社会に与える悪影響について理解する。

(2) 授業の構想

事前に薬物に関する調査を行い、実態を把握する。

初めにグラフから薬物犯罪の検挙数やMDMAについて確認させる。次に警察官による薬物乱用の社会的影響についての講話を聞かせ、自分の考えと実際に社会で起こっている犯罪との違いを考えさせたり、様々な問題に関連したりしていることを理解させる。

大多数の生徒は、自分は関係ないという考えを持っていがちだが、実は身近なところで起こりうる大変危険な状況であることを理解させ、自分なりの考えをもち、薬物の誘いに対して断る意欲をもたせたい。

(3) 展開

過程	学習指導の内容	生徒の活動	指導・援助の留意点
導入 5分	1 薬物犯罪の検挙数についての確認をする。	1 グラフから、薬物犯罪の検挙数について確認をする。その中でも特にMDMAの検挙数が急激に上がっていることを確認する。	講師紹介 ・薬物犯罪の検挙数やMDMA統計を準備する。
展開 40分	2 学習課題	2 薬物乱用が自分自身や社会に与える悪影響について理解しよう。	・薬物で検挙される理由や、法律との関わりについて考えさせる。
	3 薬物乱用の自分自身や社会に与える悪影響を理解する。 (警察官)	3 薬物乱用の自分自身や社会に与える悪影響についての講話を聞く。 ・物犯罪検挙補導状況 ・薬物乱用と犯罪(中・高校生の実態) ・自分自身や社会への悪影響	・警察官が薬物乱用の自分自身や社会に与える悪影響について説明する。 ・薬物乱用者がいる家庭では、家族の人間関係や経済的な影響など、様々な問題が起こっていることを知る。
	4 薬物乱用の社会的影響についてまとめをする。	4 ・班ごとに、薬物乱用問題に対して自分自身の考えや感想を発表する。また、班の代表を決め、その代表が全体で感想を述べる。 ・薬物乱用の社会的影響についての学習のまとめをする。	・班ごとに意見交流をすることにより、薬物乱用問題について自分の考えを持ち、自分の意志で薬物の誘いに対して断る意欲を持たせる。
終末 5分	5 実際に薬物乱用に関わり、更生しようとしている若者の手記を見る。	5 実際に薬物乱用に関わり、更生しようとしている若者の手記を見る。	・教師が手記を読み、薬物が若者に与えた悪影響がどれほど大きなものだったかを知らせる。

5. 評価

- ・薬物乱用が、自分自身や社会に与える悪影響について理解することができたか。